

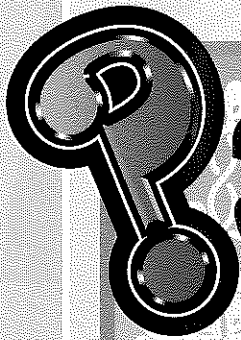
組報

みなみそ

第11号

2012(平成24)年3月1日

浄土真宗本願寺派東京教区南組 大田区本羽田3-17-6 海岸寺内 TEL.3742-0921



ご門徒からよくある質問

浄土真宗

Q&A

特集
P4・5



大遠忌法要中、ご本山・御影堂で飾られた『最高のお荘厳』九具足

目次

P6 — 仏教壮年講座

P7 — ご消息(ご門主からのお手紙)

P2・3 — 親鸞聖人750回大遠忌 団体参拝特集

P8 — お焼香の作法

要 団体参拝旅行 写真特集



6月9日 午後の法要に参拝。満堂の中、新門さま御導師のもと、新制定された「宗祖讃仰作法」がとめられました。



昨年4月から始まった親鸞聖人750回大遠忌法要は、京都のご本山・御影堂ごえいどうで65日間、115座つとめられ、総参拝者数140万人を超えました。

南組では6月9日に僧侶や門信徒2000人が団体参拝。50年に一度のご勝縁を喜びました。

2泊3日の日程で行われた団体参拝旅行の様子を写真特集で。なお、ご満座まんざ(1月16日)法要後には、「ご門主もんすがご消息しよせき(お手紙)を発布はつぷされましたので、7ページに全文掲載しています。

主な日程

1日目

午後 大遠忌法要参拝
書院・飛雲閣参拝
延暦寺会館宿泊

2日目

午前 比叡山延暦寺
根本中堂
常行堂 参拝

午後 郡上八幡
白川郷

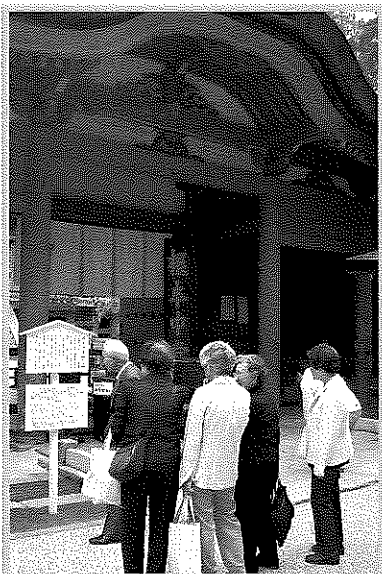
飛騨高山温泉宿泊

3日目

午前 高山市内散策

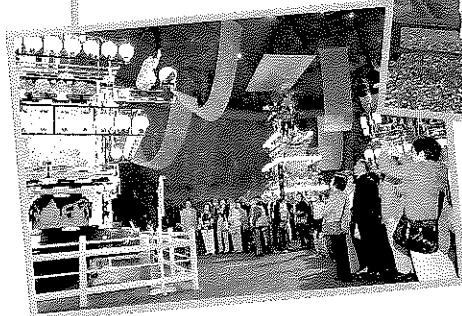
南組

親鸞聖人750回大遠忌法

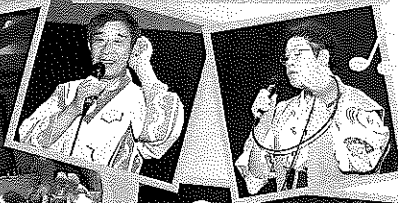


▲ 親鸞聖人がご修行された比叡山延暦寺の常行堂 (=にない堂) と根本中堂 (右上) を参拝。聖人が過ごされた往時を偲ぶことができました。

▲ 白川郷や高山市内を散策



恒例?のカラオケ大宴会。賑やかで楽しい一時でした。



団体参拝旅行に参加して

大遠忌の年に喜びの帰敬式

ききょうしき

境内の逆さイチョウの前に立っています。帰敬式を受けて法名を頂きました。初めて、この地に立ったのは、中学の修学旅行の時でした。門徒となって帰敬式を受けるとは夢見たにませんでした。

前回は蓮如上人500回遠忌法要に参拝しました。今回は宗門の案内も円滑で、混雑などによる疲れも感じられませんでした。平成の大修復成った御影堂も年代を経た荘厳さも変わらず、どつりとしていました。

50年毎の大遠忌法要、次回は参拝できませんが、その時の宗門、いや日本はどうなっているのでしょうか。法要のスローガン「世の中、安穏なれ」との願いに反して、平成23年は大変な年になりました。これから長い年月を掛けて原発事故の収束を進めていかなければなりません。スローガンが一層大切なものになりました。世の中の無事を念じます。

浄興寺門徒 楚山 利雄 (61歳)

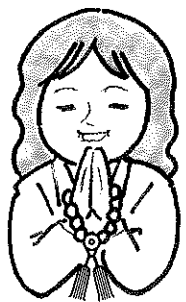


Q 東西に分かれたのはいつ？ 教えに違いは？

お東は「なむ」と発音し、お焼香もお西は「一回」(8面に紹介)、お東は「2回」薫(くん)じるなど、作法やおつめの節などに違いがあります。

信長によって大阪から和歌山に移ることを余儀なくされた本願寺は、秀吉から京都六条(現在のご本山周辺)を寺地に与えられ、第11世・顕如上人が往生後、讓状から次男の准如上人が12世となりました。しかし、江戸時代初めの1603(慶長8)年に家康が長男の教如上人に烏丸七条を与え、12世とされました。寺地の位置から准如上人の本願寺を「お西」、教如上人の本願寺を「お東」と呼ばれるようになります。

教えの違いはありませんが、お西は「南無」を「なむ」、



なむ
あみだを
しんじらう

A 江戸時代初め。教えは同じ

ご門徒とお話をさせていただきまして、「ちよつとお聞きしたいのですが…」と、申し訳なさそうに浄土真宗の教えや作法について質問をされることがあります。私たち僧侶にとって、皆さんが仏教に興味を持っていただけることは大変うれしいことですので、お気軽にご相談ください。今回は比較的多い質問を選んでお答えします。

※「お焼香の仕方」は8ページに紹介しています。

浄土真宗

ご門徒からよくある質問

& A

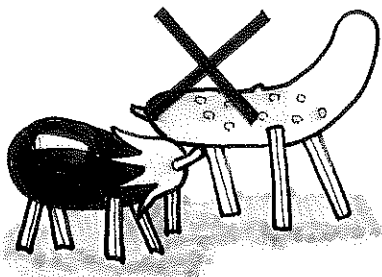
浄土真宗講座 特集

る身の私たちは、ご朱印を集める必要はありません。力の教えを根本とする浄土真宗では唱えません。塗りのお位牌などをつくる必要はありません。みんながお参りしやすい場所に安置しましょう。いただいたいのを一生懸命に生きていきましょう。いたたく身なので、冥福を祈る必要はありません。う意味ですが、現在は真宗の信徒を指す言葉です。典」。葬儀や法事では黒または黄、報恩講では赤の水引。

Q お盆はどうすれば？ ナスやキュウリは？

いわゆる「お盆かざり」は必要ありません。精霊棚や盆棚は不要です。普段通りお仏壇をきれいにし、餅、菓子、果物などをお供えます。お仏壇の中心はご本尊・阿弥陀如来。位牌や遺影は置きません。

浄土真宗のお盆では、私たちをお救い下さる阿弥陀如来に感謝し、その教えに出遇わせてくださった先祖のご恩を思わせていただきます。先祖の迎えや送りはしません。足の付いたナスやキュウリ、提灯などは不要です。



イラスト・斎藤貞三郎氏(報身寺門徒)

A 迎えも送るはしません。ナスなどは×

Q 友引に葬儀は大丈夫？ 清め塩は？

葬儀を勤めてはいけない日などありません。中国の六曜と仏教は関係ありません。「友引」という文字から、「身近な人も亡くなってしまう…」などを連想されるのですが、単なる語呂合わせに過ぎません。

清め塩は亡き人を「穢れ」として忌み嫌う行為で、私たちには必要はありません。棺に釘を打ったり、火葬場の行き帰りの道をわざわざ変えることは、亡き人にとってさみしい行為です。

浄土真宗の私たちは迷信や俗信に惑わされない生活を送らせていただきます。

A 迷信や俗信にまどわされななげなげ！！



A 友引はなげなげなげなげ。清め塩は不要

その世の よくある質問？



- ご朱印はありますか？ → 自力の善行ではなく、如来の本願(他力)で救われ
- 般若心経は唱えますか？ → 般若心経には自力の教えが説かれているので、他
- お位牌は必要ですか？ → 過去帳を用いましょう。仏具店で購入できます。黒
- お墓やお仏壇の向きは？ → 方角などは気にしないでください。お仏壇は家族
- 厄払いはした方がいい？ → 厄年など関係ありません。迷信に左右されないで、
- 冥福は祈るのですか？ → 亡くなるとすぐにお浄土に生まれ、仏にならせて
- どうして「門徒」なの？ → もともとは「一門の徒輩」。一つの宗門の仲間とい
- 金封の表書きや水引は？ → 僧侶に渡す時は「お布施」、一般には「御仏前」や「御香

仏 壯 講 座

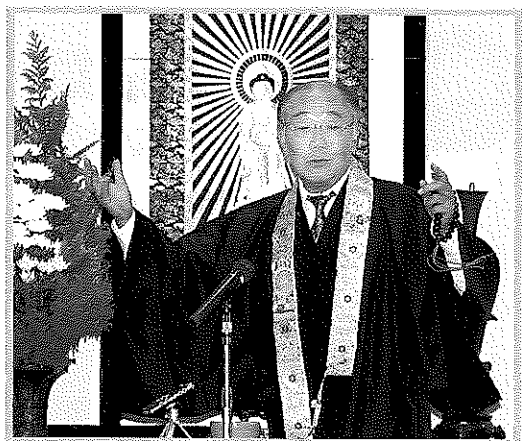
「お育て」

講師

俳優、金沢市乗敬寺住職

石田 太郎 氏

よき人に導かれて



10年前のことです。金沢で住職をしていた父が亡くなり、その跡継ぎの話が、東京で役者をしている私にきました。私は大いに悩み、ご辞退するつもりでいました。というのも、亡くなった父も住

職になるまでは長年、東京で役者をしていたため、私自身は一度も金沢のお寺で暮らしたことがなかったからです。学生時代から舞台に立ち、お寺とは正反対ともいえる芸能界ひと筋の人生だったからです。

金沢では、そんな私をいろんな方が励ましてくれました。「みんな協力するから大丈夫」、「10年後、絶対よかったと思うから、やりなさい…」と。

なかなか決心がつかない私に、あるおばあちゃんが言いました。「わたしの葬式は、あんたがするんや。あんたがやらんでだれがする。わたしはあんた以外に葬式はしてもらわん」

おばあちゃんの声、言葉の響き、

その表情から、直感的にお寺とご門徒との理屈を超えた深い深い絆を感じ、住職となることを決心しました。180センチある私に比べると、小さな小さなおばあちゃん、背中をドーンと押ししてくれたのです。

数年後、おばあちゃんは足が悪くなつて病院に入院しました。法事をつとめた帰り道、おばあちゃんのお見舞いに行こうと思いましたが、しかし、法衣姿で病院に行くのは、少し遠慮気味に病室を訪ねました。すると、おばあちゃんは大喜び。「法衣のまままで…」と言うと「有り難い、有り難い」と感謝され、同室のおばあちゃんたちも「お寺さんはその方が有り難いよ」と一緒になって喜んでくれました。私はまた一つ、おばあちゃんから住職としてのお育てをいただきました。

やがて、おばあちゃんとの今生の別れの時がやってきました。お葬式の導師はもちろん私。「きみよ、むりよう・・・」とおつとめする正信偈は万感胸に迫り来る思いでした。

「俱会一処」というお言葉が『阿弥陀経』にあります。この世の縁尽きた時、お浄土で仏となつて再

び会えるという教えです。人生には必ず最後の別れが訪れます。しかし、その「別れ」さえも真実の「出遇い」に転じてくださるのが親鸞聖人のみ教えです。

苦難多きこの人生においても、み教えに出遇うことによつて、「強く明るく生き抜く」ことができる。おばあちゃんが今、私に教えてくれています。

〔 2011(平成23)年10月8日
築地本願寺本堂 参加者121人 〕

総代・世話人 研修会



総代・世話人研修会は4月9日、妙覚寺で行われ、49人が出席しました。築地別院副輪番の俵正見氏が「大遠忌法要をお迎えして法要儀式的意義」と題して講演。法要を機に新制定された、おつとめ「宗祖讃仰作法」について話しました。

お念仏を喜び心豊かに生きることのできる社会を

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を 機縁として「新たな始まり」を期する消息ごまんざ

昨年の四月九日よりお勤めしてまいりました親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、本日ご満座をお迎えいたしました。各地から多くの方々にご参拝いただき、六十五日間百十五座にわたるご法要を厳肅にお勤めすることができましたのは、仏祖のご加護と宗祖のご遺徳のおかげであり、御同朋御同行の方々への報恩謝徳のご懇念のたまものと、まことに有り難く存じます。

顧みますと、ご法要の始まる直前の三月十一日、東日本大震災がおこりました。その後各地で地震、豪雨など災害が続ぎ、大変な一年となりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。法要参拝を楽しみに待ちながら、災害やさまざまな理由で参拝できなくなった方々のことを、忘れることができません。

地球の歴史を考えます時、自然現象としての地震や豪雨は、数限りなくあつたことでしょう。しかし、それが深刻な災害となるのは、人間のあり方、社会のあり方によります。特に、今回の原子力発電所の事故は、自然の調和を破り、後の世代に大きな犠牲や負担を強いることになりました。これは肥大した人間の欲望のもたらしたところでありました。

聖人は、凡夫には清らかな心も真実の心も存在しないとお示しになりました。それは、阿弥陀如来の光に照らされて明らかになる私の姿です。凡夫の身でなすことは不十分不完全であると自覚しつつ、それでも「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」と、精一杯努力させていた、だましよう。阿弥陀如来はいつでも、どこでも、照らし、よびつづけ、包んでいてくださいます。

本願念仏のご法義は、時代が変わり、社会が変わつても、変わることはありません。しかし、そのご法義が活かしてはたらく場である現代の社会は、地域によって異なり、時とともにより変わります。ご法義を伝え、広めるための宗門の組織も、社会の変化に応じて変わらなければなりません。歴史を顧みて、受け継ぐべき伝統を確かめ、創造的な活動を育てていく営みの一つであると言えましょう。新しい体制のもとで、一人ひとりが抱える課題を大切に、お念仏を喜び心豊かに生きることのできる社会を目指しましょう。このたびの大遠忌法要が、新たな歩みを進める機縁となりますよう念願いたします。

平成二十四年 一月十六日
二〇二二年

龍谷門主 釋 即如

商組に所属する浄土真宗本願寺派(お西)のお寺です

西光寺	さいこうじ	品川区大井4-22-16	☎ 3777-6070
最徳寺	さいとくじ	大田区大森北3-18-25	☎ 3761-6811
徳浄寺	とくじょうじ	大田区大森東1-16-22	☎ 3761-4127
厳正寺	ごんしょうじ	大田区大森東3-7-27	☎ 3761-4945
久宝寺	きゅうほうじ	大田区本羽田3-17-1	☎ 3742-0886
海岸寺	かいがんじ	大田区本羽田3-17-6	☎ 3742-0921
福泉寺	ふくせんじ	大田区萩中3-27-10	☎ 3742-2048
光教寺	こうきょうじ	大田区中央4-35-3	☎ 3771-9408
専浄寺	せんじょうじ	世田谷区等々力6-7-10	☎ 3701-4753
報身寺	ほうしんじ	大田区萩中1-11-16	☎ 3738-0870
正覚寺	しょうかくじ	大田区萩中1-13-13	☎ 3731-9212

延徳寺	えんとくじ	大田区萩中1-12-17	☎ 3732-1472
福称寺	ふくしょうじ	大田区萩中1-12-20	☎ 3738-1720
妙覚寺	みょうかくじ	大田区萩中1-12-29	☎ 3738-3091
善永寺	ぜんえいじ	大田区萩中1-11-24	☎ 3739-5641
真光寺	しんこうじ	大田区萩中1-13-6	☎ 3731-5644
浄興寺	じょうこうじ	大田区東矢口2-10-9	☎ 3759-8673
唯称寺	ゆいしょうじ	品川区小山4-9-15	☎ 3782-2486
宗導寺	しゅうどうじ	目黒区日黒本町6-19-3	☎ 3712-6811
西教寺	さいきょうじ	品川区豊町1-8-12	☎ 3781-6154
善照寺	ぜんしょうじ	大田区南馬込4-9-11	☎ 3771-8700
永正教会	えいしょうきょうかい	目黒区鷹番2-17-5	☎ 3714-0767

浄土真宗本願寺派
(お西)

お焼香の作法

立ち焼香

1 ご本尊に一礼して

2 香炉へ進む

3 香は1回だけ薫じる

4 合掌礼拝

5 下がってご本尊に一礼

座り焼香

1 ご本尊に一礼して

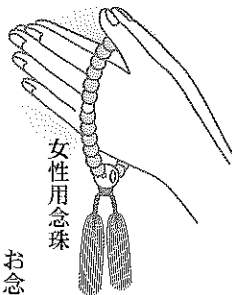
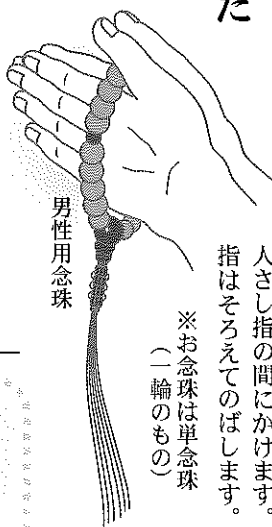
2 香炉へ進む

3 香は1回だけ薫じる

4 合掌礼拝

5 下がってご本尊に一礼

合掌礼拝・お念珠のかけかた



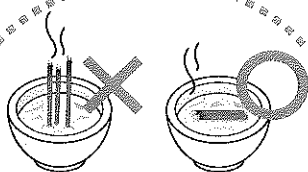
お香は額に
いただきません



キン
は
たたきません
※たたくのは
読経するときだけ



お線香は立てません



お線香のときは、適当な長さに折って必ず横にして供えてください。